

病虫害総合管理技術推進対策事業

- 実施期間：令和5年度
- 担当部署：病理昆虫部
- 区分：農産園芸課令達・交付金

○研究内容

現地で問題となっている病虫害に対し、化学合成農薬に替わる防除法や薬剤感受性検定による効果的な薬剤選択等について検証することで、環境負荷軽減に寄与する病虫害防除体系の構築を図り、岐阜県が推進している「ぎふ清流GAP」をバックアップしていきます。なお、主な内容は以下のとおりです。

◆アザミウマ類の薬剤感受性

ヒラズハナアザミウマは、イチゴやトマトなど広範な作物を加害する微小な害虫です。近年栽培施設内での多発が問題となっており、薬剤の感受性低下が疑われています。そこで、各種薬剤の感受性を調査し、効果的な薬剤選択等について検証します。

◆コナジラミ類の生物的防除を中心としたIPM技術

近年高品質なエダマメ栽培などにおいて、タバココナジラミの多発が問題となっています。タバココナジラミは複数の薬剤に対する感受性が低く、防除が難しい害虫です。そこで、薬剤に頼らない防除方法確立するため、生物的防除を中心としたIPM技術について検証します。

◆トマト立枯病の発生状況の把握および対策

近年冬春作型の養液栽培施設でトマト立枯病の被害が拡大しており、対策が求められています。そこで、生産の安定化に向け、発生状況の把握および有効な対策の検討を行います。



ヒラズハナアザミウマ



タバココナジラミ



トマト立枯病